

カキ害虫(カキハタムシガ)の性フェロモン剤を開発しました

カキノヘタムシガは、ヘタから侵入して果実を食害するため、防除が難しく大きな被害をもたらす害虫です。一方、「ぎふクリーン農業」推進のため、化学農薬を減らした環境にやさしい防除法の要望が高まっています。

そこで、東京農工大・岐阜大学等との共同研究により、カキの害虫では初めての性フェロモンを抽出し、成分を同定しました。また、この物質による交信かく乱効果を確認しました(平成16年2月3日特許出願、平成18~20年度新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業で実用化試験を実施)。

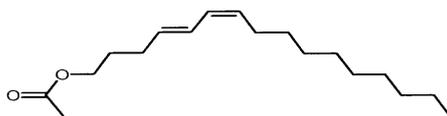


幼虫および被害果実

性フェロモンについて

性フェロモンは、配偶行動において異性間のコミュニケーションに利用される化学物質です。が揮発性の性フェロモンを放出し、を誘引し交尾を行います。

性フェロモンの主成分

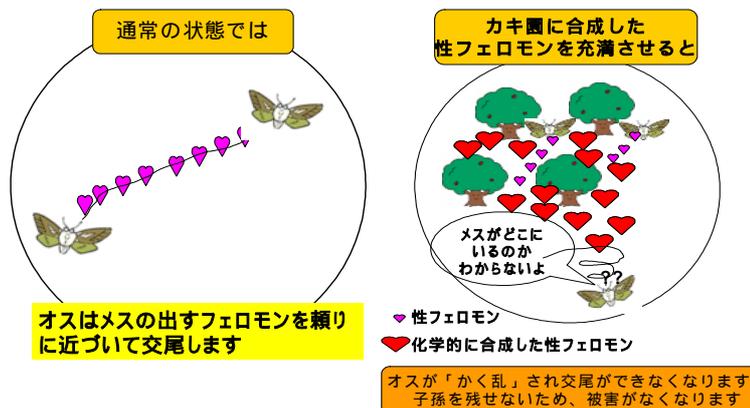


(4E,6Z)-4,6-hexadecadienyl acetate

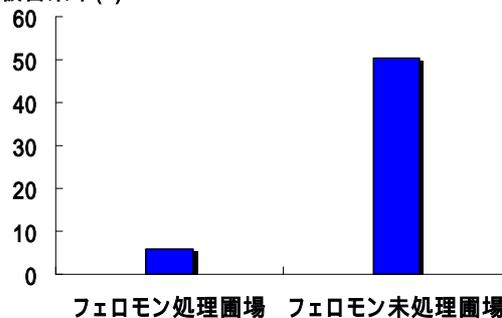


試作した性フェロモン製剤

性フェロモンによる防除のしくみ



被害果率(%)



性フェロモン製剤による高い防除効果が認められました

(研究成果)

- カキノヘタムシガの性フェロモン製剤を試作してカキ園で試験したところ、高い防除効果が認められ、効果も数ヶ月間持続することが確認されました。
- カキで登録のあるフェロモン剤(ハマキコンN、スカシバコン)と同時に使用し、互いに効果への影響がないことが分かりました。
- 現在、実用化に向けて最終試験を実施するとともに、メーカーと共同で農薬の新規登録申請に向けた準備をしています。